

【酒造好適米の需給状況（推計）】

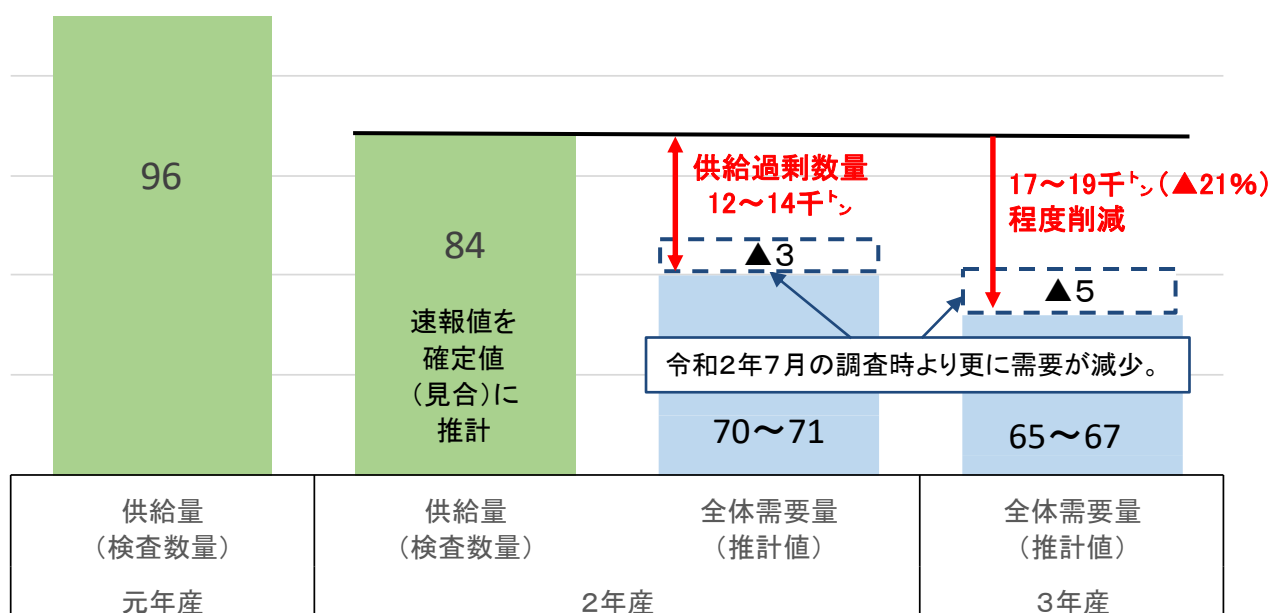
農林水産省が本年1月に行った「酒造好適米等の需要量調査（追加調査）」の結果をまとめました。
また、令和2年産酒造好適米の生産量を農産物検査結果から推計し、生産動向と需要動向の検証を行いました。
概要は以下のページで紹介しています。より詳細な情報は、下記URLよりご参照ください。
https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

【令和2・3年産酒造好適米の需給状況（推計）】

- 令和3年1月に酒造好適米等の需要量について追加調査（前回調査で回答のあった酒造メーカーのうち酒造好適米購入量が多い上位50社を対象）を行いました。この結果、令和2年7月の調査時に比べて、需要量は令和2年産で▲4%程度、令和3年産で▲7%程度と更に減少しました。
- 前回調査結果から推計した全体需要量に、追加調査結果の減少率を乗じて需要量を推計すると、前回調査に比べて令和2年産で▲3千トンの70～71千トン、令和3年産で▲5千トン程度の65～67千トンとなります。
- また、令和2年産酒造好適米の農産物検査数量（12月31日現在）がとりまとめられ、これを元に令和2年産酒造好適米の生産量を推計したところ、令和元年産から▲13%（▲13千トン）程度の約84千トンと見込まれます。
- この結果、令和2年産酒造好適米の全体需給は、生産量が需要量を12～14千トン程度上回る状況と見込まれます。
- 令和3年産については、全体需要量と同水準の生産量（65～67千トン程度）とするためには、令和2年産の生産量の▲21%（▲18千トン）程度と大幅に生産抑制する必要があると見込まれます。

酒造好適米の全体需給状況の見通し（推計）

（単位：千トン）



注1：供給量は、農産物検査数量（醸造用玄米）の値。ただし、令和2年産は、令和2年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定値見合いに推計。
注2：令和2年産及び令和3年産の需要量は、令和2年7月に実施した需要量調査結果及び令和3年1月に実施した追加調査から推計したもの。今後の酒造メーカーにおける需給状況により変動する必要があることに留意する必要がある。

令和2年度酒造好適米等の需要量調査（追加調査）結果の概要

- 昨年7月の需要量調査は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がどのようになるか不透明な中での調査であったことから、7月以降の状況の変化に応じた需要量の変化を計るため、酒造好適米の購入量が多い酒造メーカーに対して追加調査を実施。

調査の概要

	前回調査	今回調査(追加調査)
調査期間	令和2年7月	令和3年1月
調査対象メーカー数	1,421社	50社 〔 前回調査回答酒造メーカーのうち酒造好適米購入量が多い上位50社 〕
回答酒造メーカー数	730社	47社
回答率(数量ベース)	79～80%	前回調査回答酒造メーカーの55% 〔 全体需要量に対する回答率は43～44% 〕

酒造好適米の需要量調査結果

- 酒造好適米等の需要量調査（追加調査）で回答のあった酒造メーカーの酒造好適米の需要見込みは、前回調査に比べて令和2年産で▲4%、令和3年産で▲7%、令和4年産で▲3%という結果になりました。
- 前回調査結果から推計した全体需要量に、追加調査結果の減少率を乗じると全体需要量は令和2年産で70～71千トン（▲3千トン程度）、令和3年産で65～67千トン（▲5千トン程度）、令和4年産で70～71千トン（▲2千トン程度）となります。
- 品種ごとに減少割合の差はあるものの、主要品種は全て減少割合が拡大しています。ただし、追加調査は上位50社を対象とした調査であり、品種ごとに7月調査に対する回答率が大きく異なり、品種全体の増減率ではないことに注意が必要です。

酒造好適米等の需要量調査(追加調査)結果

(単位:トン、%)

	7月調査結果 (追加調査回答者分)			1月追加調査結果			需要量の増減率 (7月調査と追加調査比較)			7月調査(全体) に対する追加 調査の回答率
	2年産	3年産	4年産	2年産	3年産	4年産	2年産	3年産	4年産	
酒造好適米	32,955	30,805	31,122	31,670	28,565	30,267	▲4%	▲7%	▲3%	55%
山田錦	16,502	15,315	15,418	15,807	14,996	15,536	▲4%	▲2%	1%	66%
五百万石	7,536	7,316	7,437	7,709	6,365	7,068	2%	▲13%	▲5%	65%
美山錦	1,241	1,020	1,264	1,126	866	1,002	▲9%	▲15%	▲21%	37%
その他	7,675	7,153	7,003	7,027	6,339	6,661	▲8%	▲11%	▲5%	36%
加工用米	36,900	37,865	37,705	36,203	35,172	36,829	▲2%	▲7%	▲2%	64%

○ 追加調査の増減率で補正した場合の需要量

(単位:トン、%)

	30年産	元年産	対30年産比	2年産	対30年産比	3年産	対30年産比	4年産	対30年産比
酒造好適米の需要量調査結果(実数)	70,071	65,806	93.9%	55,983	79.9%	52,294	74.6%	56,036	80.0%
山田錦	27,836	24,950	89.6%	22,370	80.4%	21,926	78.8%	22,886	82.2%
五百万石	15,981	14,687	91.9%	11,460	71.7%	9,725	60.9%	10,885	68.1%
美山錦	4,318	3,922	90.8%	3,060	70.9%	2,771	64.2%	2,797	64.8%
その他	21,937	22,247	101.4%	19,093	87.0%	17,871	81.5%	19,469	88.7%
加工用米(実数)	80,305	71,620	89.2%	56,199	70.0%	56,356	70.2%	60,389	75.2%
酒造好適米の全体需要量(推計)	87～89千トン	82～84千トン		70～71千トン		65～67千トン		70～71千トン	

令和2年産酒造好適米の銘柄別生産状況

- 令和2年産酒造好適米の生産量は、直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率から84千トと推計され、令和元年産から▲13千ト程度（▲13%程度）と大幅に減少しています。
- 近年の需要減少に対応した作付面積の削減や、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた作付転換の他、主産地の作柄が悪かったこと等から生産量が減少したと考えられます。

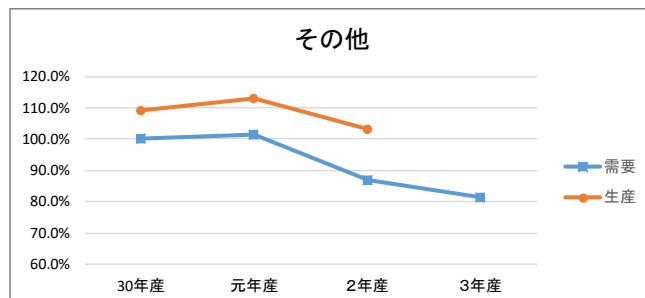
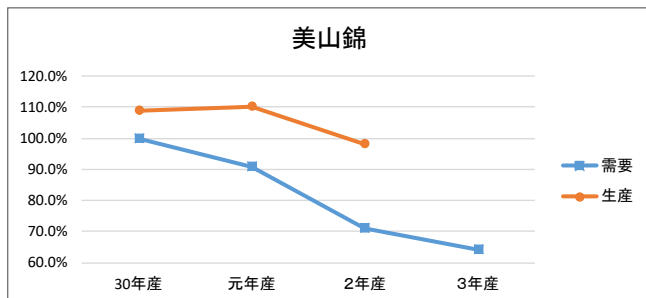
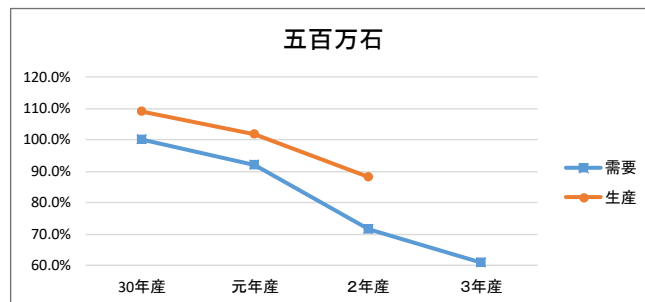
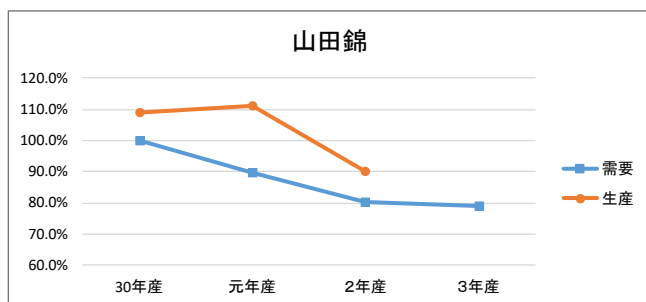
農産物検査数量（12月31日現在）及び令和2年産生産量の推計

（単位：トン、%）

品種	29年産		30年産			元年産			2年産		
	12月31日現在	確定値	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	推計値	対前年比
山田錦	37,558	38,431	33,071	33,916	90.3%	33,744	34,644	102.1%	27,420	28,123	81.2%
五百万石	19,017	20,564	18,935	21,203	111.5%	17,315	19,767	93.2%	15,440	17,194	87.0%
美山錦	6,977	7,018	6,239	6,408	91.8%	6,465	6,475	101.1%	5,701	5,765	89.0%
その他	33,490	36,388	32,153	34,330	102.5%	33,576	35,551	103.6%	30,404	32,480	91.4%
総検査数量	97,042	102,400	90,398	95,856	98.8%	91,099	96,438	100.6%	78,966	83,562	86.6%

生産量と需要量の増減率の比較試算（平成30年産基準）

- 平成30年産を基準として酒造好適米の生産量（農産物検査数量）と需要量（追加調査の増減率を乗じて補正した需要量調査報告数量）の増減率を比較すると下図のとおりです。なお、平成30年産は生産量が全体需要量を9%程度上回っていたことから、平成30年産を109%とおいて試算しています。
- 需要の減少に伴って生産も減少していますが、令和2年産においては需要を上回る生産となっていることがうかがえます。
- 令和3年産に向けて、各産地においては、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率や作況等のデータを参考にしつつ、これまでの自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要です。

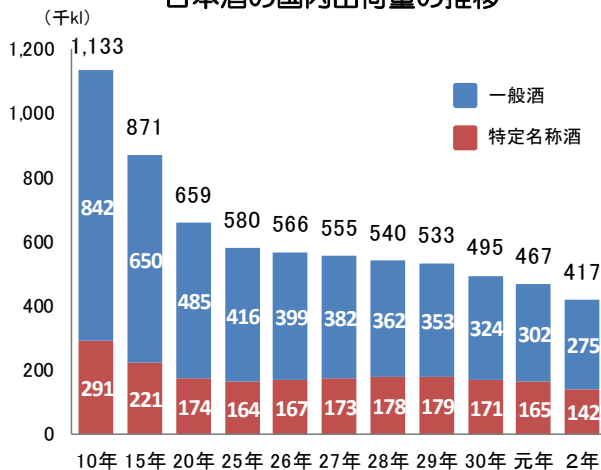


以上のほか、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率等の詳細な情報は、以下のURLを参照ください。
https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

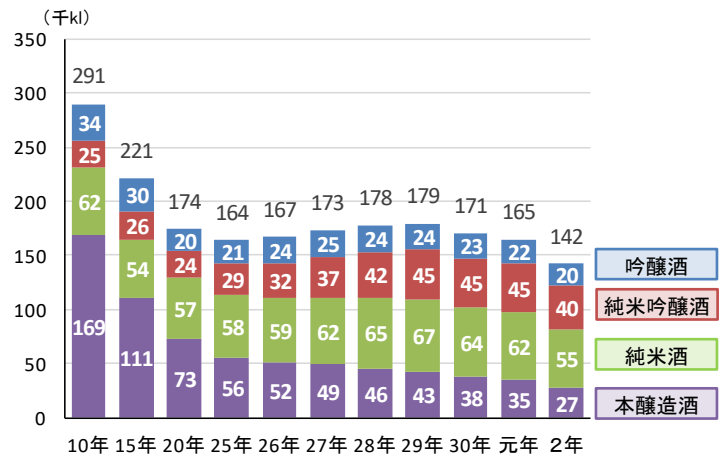
日本酒の国内出荷状況

- 日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているところですが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた特定名称酒についても減少に転じています。
- また、令和2年については、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、業務用の日本酒を中心に国内出荷量が対前年比▲11%と減少しています。特に酒造好適米を多く使用する特定名称酒は対前年比▲13%と大幅に減少しています。

日本酒の国内出荷量の推移



特定名称酒の種類別出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

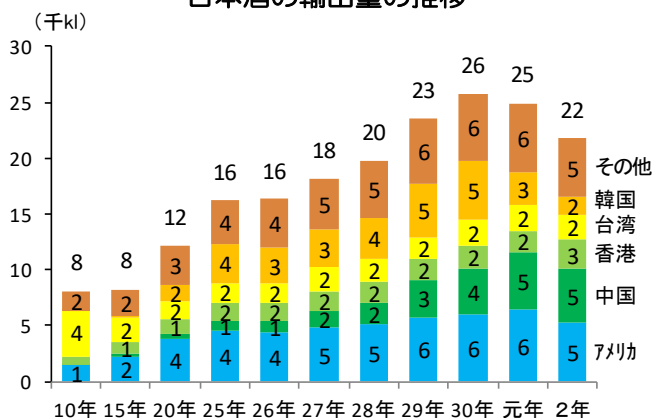
注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量で2年は概算値。

2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

日本酒の輸出状況

- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向にありました。
- 令和2年については、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延等の影響により、8月までの輸出数量が大幅に減少したため、年間トータルでは前年比▲13%と大きく減少しました。一方、9月以降は、前年を上回る輸出が続いており、今後の輸出量の増加が期待されます。
- 輸出金額については、引き続き増加傾向にあり、令和2年については、香港、中国等へ輸出される日本酒の単価が上がったことから対前年比+3%と増加しています。

日本酒の輸出量の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

日本酒の輸出金額の推移

